

2023年3月5日 午前礼拝
「天の御国の生き方⑤」あわれみ深い者 説教者:堺希望伝道師

【引用聖句】

マタイ 5:7

7.あわれみ深い者は幸いです。その人たちはあわれみを受けるから。

【説教要約】

① 幸いな人

山上の説教の5回目です。
最初に出てくる「幸いな人」について順番に見ています。

この「幸いな人」とは、神様の目から見て「幸せな生活を送っている人」ということです。

「幸せな生活」の基準は人によって異なります。
ある人にとっては安定した生活が続くことが幸せかもしれません。ある人にとっては刺激的な日々であることかもしれません。または穏やかな気持ちで生き続けられることかもしれません。
それは人によって違います。

神様から見た「幸せな生活」のイメージがこの「幸いな人」なのです。この人について8つの特徴が語られています。

マタイ 5:3, 「心の貧しい者は幸いです。天の御国はその人たちのものだから。
マタイ 5:4, 悲しむ者は幸いです。その人たちは慰められるから。
マタイ 5:5, 柔和な者は幸いです。その人たちは地を受け継ぐから。
マタイ 5:6, 義に飢え渴く者は幸いです。その人たちは満ち足りるから。
マタイ 5:7, あわれみ深い者は幸いです。その人たちはあわれみを受けるから。
マタイ 5:8, 心のきよい者は幸いです。その人たちは神を見るから。
マタイ 5:9, 平和をつくる者は幸いです。その人たちは神の子どもと呼ばれるから。
マタイ 5:10, 義のために迫害されている者は幸いです。天の御国はその人たちのものだから。

今まで見てきた通り、神様から見た「幸いな人」は多くの人考える幸せとは異なります。
いつも「神様との関係」がどうなのかが問われているからです。

これまで見てきた前半4つの特徴は、自分でそうなるものではなく、いわば神様が気付かせてくださることでした。

「(神様に対する) 心の貧しさ」

「(神様の) 悲しみ」

「(神様の前の) 柔和」

「(神様との) 義に飢え渴く」ということでした。

これらは人が努力で変化できることではなく、神様が変えてくださる「心の状態」と言えます。

その始まりは、「私にはイエス様の犠牲が必要だ」という救いの求めです。

マタイ 4:16, 暗やみの中にすわっていた民は偉大な光を見、死の地と死の陰にすわっていた人々に、光が上った。」

マタイ 4:17, この時から、イエスは宣教を開始して、言われた。「悔い改めなさい。天の御国が近づいたから。」

この世では救われることのない自分を、イエス様が救ってくださったのです。私達も「悔い改めなさい」というイエス様の呼びかけに応えたから、心の変化、神様との関係が始まったのではないのでしょうか。

イエス様を信じた人に、「神様とともに生きる」とはどういうことなのかをイエス様は山上の説教で語っておられるのです。

さて、今まで見てきた前半4つには共通点があります。人が「すること」ではなく神様が気付かせてくださる「心の状態」だったということです。

この4つをまとめて覚えやすくするために、前半4つの特徴のみ元のギリシャ語では全部「P」の音から始まるようになっています。

「貧しい」 = プトーコイ

「悲しむ」 = ペンセオー

「柔和」 = プラウス

「飢える」 = ペイナオー

今日から後半4つに入りますが、前半に比べて後半はもっと実践的な教えと言えます。

前半4つの状態は「神様と私の関係」が中心だったのですが、今度はそこから進んで「隣人と私」が中心になるからです。

②赦すこと

マタイ 5:7, あわれみ深い者は幸いです。その人たちはあわれみを受けるから。

今日見ていくのは、「あわれみ深い者」です。

あわれみ深いというのは、同情的であるとか感受性が強いことよりも、「人に対して実際に施しをする」という意味です。

喜捨という言葉が日本語にもあり、貧しい人や仏に財産を施すという意味です。仏教やイスラム教でも「すべきこと」として勧められているようです。

聖書もまたクリスチャンに「喜んで施すこと」を勧めています。他の宗教とは理由が異なります。

クリスチャンに施しが勧められている理由は、「神様が私にして下さったから」に他なりません。

聖書の言うあわれみには、大きな特徴があります。その一つが、「赦す」ということです。

同じマタイの福音書の中で、イエス様がこのように例え話を始められました。

マタイ 18:21, そのとき、ペテロがみもとに来て言った。「主よ。兄弟が私に対して罪を犯した場合、何度まで赦すべきでしょうか。七度まででしょうか。」

マタイ 18:22, イエスは言われた。「七度まで、などとはわたしは言いません。七度を七十倍するまでと言います。」

マタイ 18:23, このことから、天の御国は、地上の王にたとえることができます。王はそのしもべたちと清算をしたいと思った。

マタイ 18:24, 清算が始まると、まず一万タラントの借りのあるしもべが、王のところに連れて来られた。

マタイ 18:25, しかし、彼は返済することができなかったので、その主人は彼に、自分も妻子も持ち物全部も売って返済するように命じた。

王様に1万タラントの借金があるひとりのしもべが登場します。

1万タラントとは、17万年分のお給料を指します。もう一度言いますが、17万年分のお給料のことです。

この途方もない借金を王様に返さなければならなかったのに、しもべは自分と家族と持ち物をまず売ってお金を返すように言われます。

マタイ 18:26, それで、このしもべは、主人の前にひれ伏して、『どうかご猶予ください。そうすれば全部お払いいたします』と言った。

マタイ 18:27, しもべの主人は、かわいそうに思って、彼を赦し、借金を免除してやった。

しもべはひれ伏して、王様に待ってくださるよう懇願します。

すると王様は、そのしもべの姿を見てかわいそうに思って、なんと全額免除して下さったのです。

17万年分のお給料と聞いても、想像できないほど途方も無い数字ですが、それを減額したり猶予したりするどころか、全額免除してしまったのです。

この王様は神様を例えています。

そして、王様に 17 万年分の給料の金額を借金したしもべは、私達のことです。借金は、私達が神様に対して犯し、負っている罪のことです。

神様から見た私達の罪がどれほど重いのか、少し想像できるのではないのでしょうか。17 万年分では、死ぬまで頑張っても、到底足りません。自分の持ち物や自分の人生を売っても全然足りません。罪びとであるとは、このような果てしない重さがあります。そんな人生の中で、そもそも神様に何かを求めたり、自由を主張できる立場なのでしょう。ただ責めを負って滅びていくしかできないのではないのでしょうか。

しかし、驚くべきは王様、神様の「あわれみ」です。神様は私達を見て、かわいそうに思い、すべての罪をただイエス様が負われるようにし、赦してくださったのです。

例え話の続きに戻りましょう。王様に、17 万年の給料分の借金を一方的に赦されたしもべはどうしたのでしょうか。

マタイ 18:28, ところが、そのしもべは、出て行くと、同じしもべ仲間で、彼から百デナリの借りのある者に出会った。彼はその人をつかまえ、首を絞めて、『借金を返せ』と言った。

マタイ 18:29, 彼の仲間は、ひれ伏して、『もう少し待ってくれ。そうしたら返すから』と言って頼んだ。

マタイ 18:30, しかし彼は承知せず、連れて行って、借金を返すまで牢に投げ入れた。

今度は、しもべ仲間が出てきます。その仲間は、最初のしもべに 100 デナリの借金をしていました。

100 デナリとは、100 日分のお給料のこと、今でいうと 100 万円の感覚です。王様に赦されたしもべは、仲間の首をしめて、「借金を返せ」と迫ります。しもべが王様にしたように、仲間もひれ伏して「待ってくれ」と懇願するのです。しかししもべは、その仲間を赦さず、奴隷の身分として牢屋に入れてしまうのです。

しもべは、自分が王様から赦された借金の大きさや、王様のあわれみの心を忘れて、ずっと小さな借金をしている仲間を赦さなかったのです。

マタイ 18:31, 彼の仲間たちは事の成り行きを見て、非常に悲しみ、行って、その一部始終を主人に話した。

マタイ 18:32, そこで、主人は彼を呼びつけて言った。『悪いやつだ。おまえがあんなに頼んだからこそ借金全部を赦してやったのだ。』

マタイ 18:33, 私が おまえをあわれんでやったように、おまえも仲間をあわれんでやるべきではないか。』

マタイ 18:34, こうして、主人は怒って、借金を全部返すまで、彼を獄吏に引き渡した。

マタイ 18:35, あなたがたもそれぞれ、心から兄弟を赦さないなら、天のわたしの父も、あなたがたに、このようになさるのです。』

しもべの仲間は、しもべに 100 デナリ = 100 万円ほどの大きな借金をしていました。それも大きな借金でしょう。

しかし、しもべ自身は、王様は 1 万タラント = 17 万年の給料分を借金していたのです。それに比べれば 100 デナリは、取るに足らない金額です。

聖書が言う「赦す」ということは、「自分が損をする」という性質を持っています。

王様はしもべを赦した代わりに 1 万タラントを失いました。

イエス様は、私達の罪を赦すために、ご自分のいのちを失いました。

しかし、しもべがほんの 100 デナリを赦せなかったのは、自分が赦していただいた物の大きさを知らなかったからです。

王様は大きなあわれみゆえに、1 万タラントを我慢されました。

しかししもべはあわれみの心がなく、100 デナリを我慢できなかったのです。

私たちは、自分自身の罪の大きさをどれだけ理解できているのでしょうか。

その罪を赦すためにイエス様が払って下さった犠牲に、どれほど感謝しているのでしょうか。

神様が私達に期待しておられるのは、私達の優しさとか努力で人に負わされた 100 デナリを赦すことではなく、私達が赦された 1 万タラントの大きさゆえに人の 100 デナリを赦すことです。

イエス様が払って下さった犠牲には全く及ばないけれども、同じあわれみの心を持って「自分が損をして」人を赦すのです。

ただ、「自分が損をする」ことで終わるわけではありません。

マタイ 5:7, あわれみ深い者は幸いです。その人たちはあわれみを受けるから。

もし、イエス様の犠牲を覚えて、自分もそれに習うなら、他ならぬ神様から「あわれみを受ける」という約束がされています。

それは、はじめにイエス様から受けたあわれみを受け続けることでもあります。

人に与えたり、赦すときに私たちは犠牲を払います。

しかしそのような時、実は失っているだけではないのです。その人は神様の近くにおいて、神様と一緒に歩んでいるのです。

神様からあわれみを受け続けるのです。